

AI・ロボット 転機予報 Part2 ①

「万能」の実際

第3次人工知能(AI)ブームの到来から数年がたち、AI技術を活用しよるビジネスで活発な動きが活発根幹を担う重要な存在

AI人材とは何か

だ。その中で、取り組みをけん引できるAI人材の不足が叫ばれてはいるが、AI人材とは何を指しているのか。よくイメージされるのは、ディープラーニングに代表される機械学習技術について知識を持ち、実際のデータに対して適用できるデータサイエンティストや機械学習エンジニアと呼ばれる職種のことであろう。もちろんこのような人材も、AI技術のビジネス活用の

その重要性を語る上で前提となっているのは、AIは万能ではないということである。AI技術で達成できる精度は、原理的に100%になることはなく、ほとんどの場合で

人間のエキスパートの水準にもほど遠い。実際の所、人間の素人の水準か、それを下回る場合すらある。創造的に考える身近なAI技術を思

にエキスパートであるベテラン社員と同水準の仕事ぶりを目指すに終わってしまう。ベテラン社員の代わりには新人に仕事を任せて同じ結果を期待するよる。例えば、ベテラン社員2人の仕事を、ベテラン1人と新人2人の仕事に振り替えても品質が低下してしまう。新人が1人余りしてしまう。一つの発想として、新人2人によるビジネス変革をまず作業させ結果を進める上で、今後社会ベテランが修正するなどの作業フローに変えることが考えられる。当社では、AI技術の団体やベンチャー企業との連携、検討する中で、最先端の情報や課題についてそれぞれの立場から解説する。(金曜日掲載)

技術とビジネス現場つなぐ

Laboro.AI 代表取締役CTO

藤原 弘将



07年(平19)産業技術総合研究所入所。12年ボストン・コンサルティング・グループ入社。AI系のスタートアップ企業を経て、16年にLaboro.AIを創業。

い出せばイメージが湧くものではない。スマートフォンやスマートフォンの音声対話は人間とやりやすい。AI技術が真価を發揮する際には、AIがベテラン社員には及ばないことを認識した上で、AI技術の進め方を要する必要がある。実際のビジネスの現場において、AI技術の活用を創造的に考える必要がある。それを担う人材を

(金曜日掲載)